

株主メモ

上場証券取引所	東京(証券コード:6762)
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当基準日	期末:毎年3月31日、中間:毎年9月30日
株主総会基準日	毎年3月31日(そのほか臨時に必要があるときはあらかじめ公告いたします)

定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告(当社のホームページ https://www.jp.tdk.com/ に掲載いたします)
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

■ 株式に関するお手続きについて

お手続きの内容	お問い合わせ窓口
配当金の受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求、住所変更、名義変更等	証券会社等にて当社株式をお持ちの株主様 ▶お取引のある証券会社等へお問い合わせください。
	特別口座にて当社株式をお持ちの株主様 ▶三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。
未払配当金の照会、支払い	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。

■ お知らせコーナー

<p>● 配当金の受取方法について:</p> <p>配当金はお受取り忘れのない、安心、確実、スピーディーな、口座振込でのお受取りをお勧めします。</p>
<p>● 単元未満株式の買取・買増請求について:</p> <p>単元未満株式の買取・買増請求に係る当社に対する手数料は無料となっておりますので、是非ご利用ください。(但し、特別口座の株主様を除き、証券会社等に対する手数料が別途必要となる場合がありますので、ご注意ください)</p>
<p>● 今回お送りした「配当金計算書」について:</p> <p>確定申告を行う際、添付書類としてご使用いただくことができますので、大切に保管してください。</p>

■ 株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) (受付時間:9:00 ~ 17:00 ※土日休日を除く)



この冊子は植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

TDK株式会社

〒103-6128 東京都中央区日本橋二丁目5番1号
<https://www.jp.tdk.com/>

124期 株主通信 証券コード:6762

TDK Today

Vol.64

2019年4月1日 ▶
2019年9月30日

特集:

これからの世界を変える

EX (エネルギー変換)

に向けたTDKの戦略



株主の皆様へ

半期の営業利益は過去最高を更新*
成長戦略に基づく施策実行を加速し、
収益向上を目指します。



2020年3月期上半期業績について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年3月期上半期(2019年4月1日から9月30日までの6か月間)の連結業績についてご報告申し上げます。

当上半期におけるエレクトロニクス市場を概観しますと、自動車市場は、部品搭載点数の増加傾向が継続したものの、自動車販売台数は最大市場である中国のみならず、インドなどの新興国における販売も不振で前年同期比で減少しました。産業機器市場は、需要が低調に推移しました。ICT(情報通信技術)市場では、スマートフォンの生産が前年同期の水準を若干下回ったものの、5G(第5世代移動通信システム)関連の需要の立ち上がりが見られました。

このような経営環境の中、2020年3月期上半期の連結業績は、売上高が前年同期比2.1%減の7,070億円、営業利益が前年同期比10.7%増の688億円、当期純利益が前年同期比9.4%増の449億円となりました。

2020年3月期 上半期連結業績概要

売上高	7,070億円(前年同期比 2.1%減)
営業利益	688億円(同 10.7%増)
当期純利益	449億円(同 9.4%増)

当上半期は、米中貿易摩擦の影響が本格化し、中国をはじめとした世界経済の減速傾向が継続しましたが、スマートフォン向けの二次電池の販売拡大など、ICT市場向けの売上が好調に推移したことにより、半期及び四半期ベースで営業利益は過去最高を更新*しました。

*2017年3月期に計上の事業譲渡益を除いたベースで比較

2020年3月期下半期の見通しについて

下半期も世界経済の先行き不透明感が継続し、景気回復は見込めないという想定の下、成長戦略に基づく施策実行を加速し、収益向上を目指してまいります。第3四半期の売上高増減イメージは以下の通りです。

第3四半期の売上高増減イメージ

(億円)

セグメント区分	2020年3月期第2四半期実績	2020年3月期第3四半期予想(第2四半期比)
受動部品	1,019	±0%
センサ応用製品	208	+6%~+9%
磁気応用製品	545	+5%~+8%
エネルギー応用製品	1,737	△6%~△9%
その他	194	-
合計	3,702	△1%~△4%

業績と配当の見通しについて

上半期の実績、下半期の業績見通しなどを踏まえた2020年3月期の連結業績と1株当たり配当金の見通しは、以下の通りです。

売上高	1兆3,900億円(前期比 0.6%増)
営業利益	1,200億円(同 11.3%増)
当期純利益	840億円(同 2.2%増)

※第3四半期以降の平均為替レートは対米ドル108円、対ユーロ122円を想定(2019年10月31日時点)

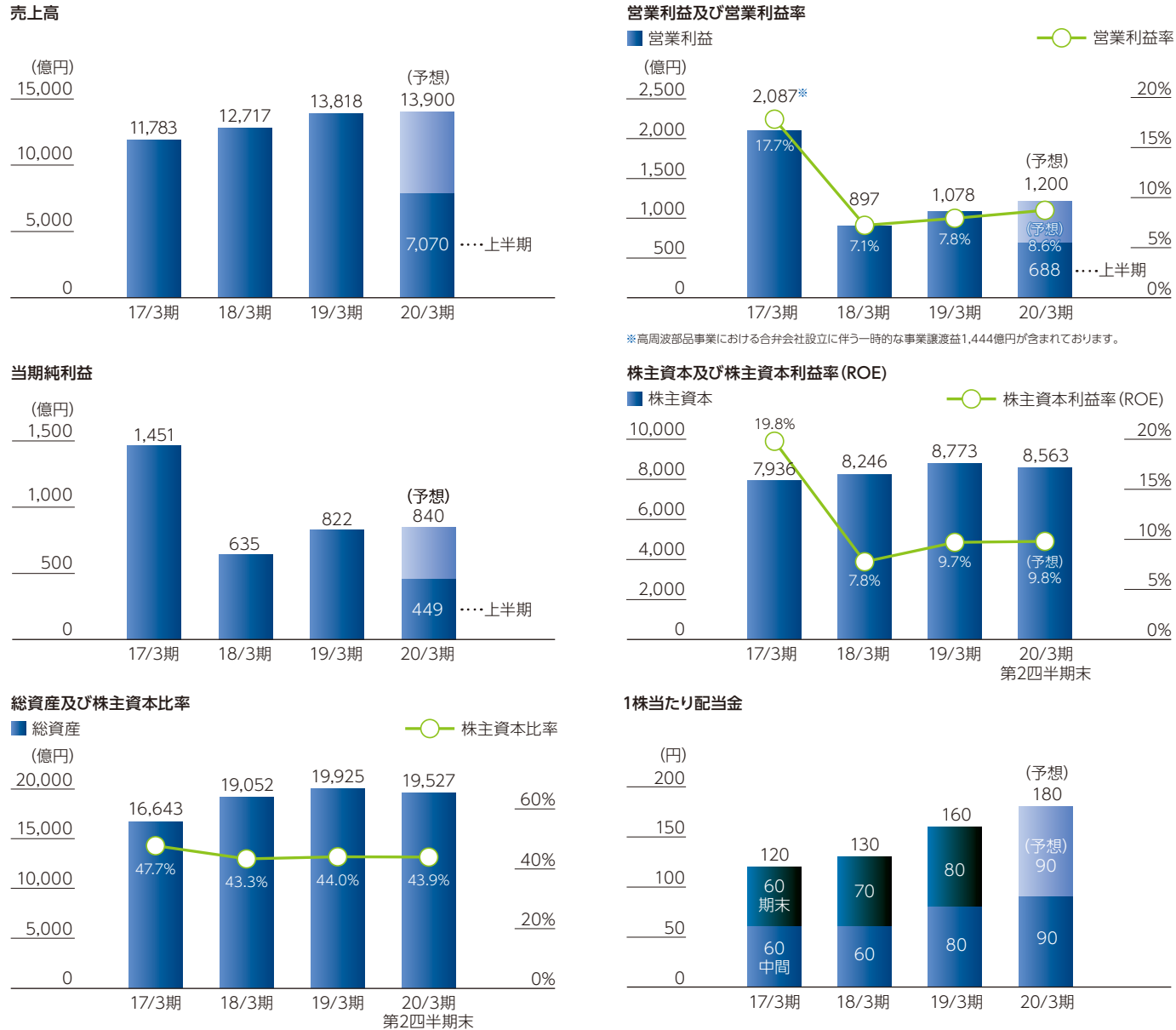
中間配当	90円(前期実績 80円)
期末配当	(予想)90円(同 80円)
年間配当	(予想)180円(同 160円)

今号の特集では、DX(デジタルトランスフォーメーション)とEX(エネルギートランスフォーメーション)について取り上げました。当社は、このDXとEXによる社会の変革の波を確実に捉え、あらゆるシーンで様々なソリューションを提供することで、中長期的な企業価値の向上を実現してまいります。

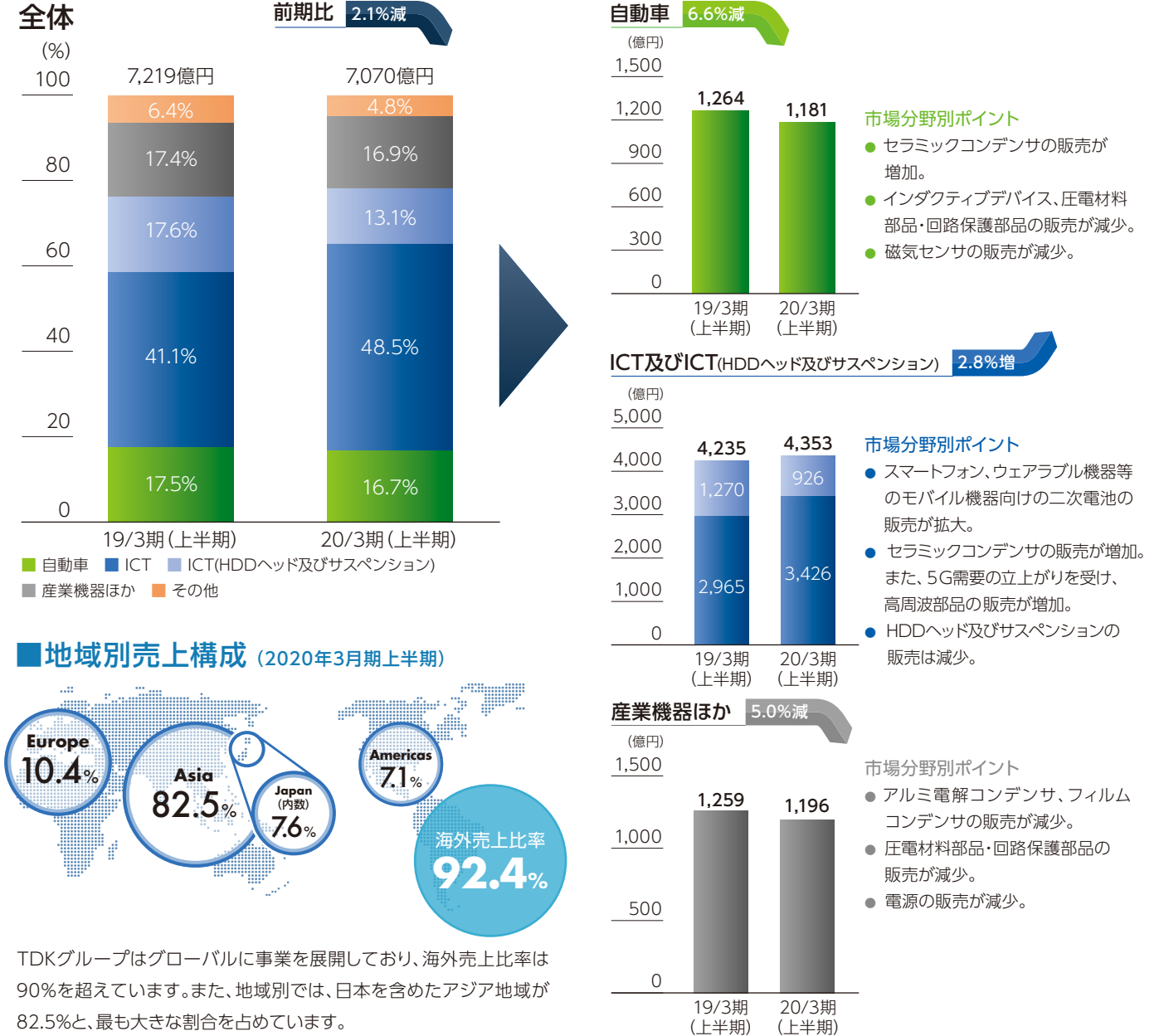
株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 石黒成直

■主要財務指標等の推移 (予想: 2019年10月31日発表)



■重点分野別売上の状況 (2020年3月期上半期)



これからの世界を変える EX (エネルギートランスフォーメーション) に向けたTDKの戦略

DX+EXがもたらす近未来のイノベーション

パソコンやインターネット、スマートフォンがビジネスやモノづくり、そしてライフスタイルを一変させたように、現在、世界にはDX(デジタルトランスフォーメーション)とEX(エネルギートランスフォーメーション)という大きな変革の波が押し寄せています。

DXとは、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)の浸透により、人々の生活をより良い方向に根底から変化させるという概念です。この大きな変革の波を乗り切れることは、企業が今後生き残るうえで不可欠といえます。また、エネルギー問題の解決と持続可能な社会を目指したエネルギー分野での変革がEXです。いま世界に求められているのは、柔軟で斬新な発想によるスマートな“DX+EXソリューション”です。前号の特集では5Gネットワーク社会に向けたTDKの戦略を取り上げましたので、今号はDXではなくEXに焦点を当て、TDKのEXソリューションについてご紹介します。

“エネルギーをスマートに操る”EXソリューション

世界の人口増加とともに、エネルギー需要も急拡大しています。太陽光や風力などの再生可能エネルギーの活用や、エネルギーロスの削減は、21世紀における人類の共通課題です。デジタル技術や通信技術、センサ技術などを活用して、“エネルギーをスマートに操る”ことで、きめ細かな省エネとともに、より快適なエネルギーインフラの実現が可能になります。

たとえば、再生可能エネルギーで発電した余剰電力をリチウムポリマー電池などの蓄電システムに蓄えておけば、電力需要のピーク時に合わせた使用のほか、災害時の停電対策としても有効です。EV(電気自動車)がさらに普及すれば、搭載バッテリーの電力を交流に変換して商用電力として活用することもできます。



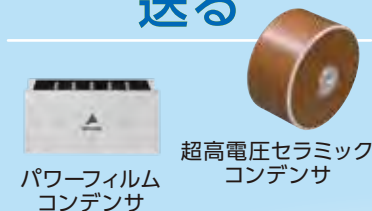
EXソリューションに向けて真価を発揮するTDK

TDKは2018年、リチウムポリマー電池、産業用電源、車載用電源などを主力製品とする3つの事業部門を束ねる“エナジーソリューションズビジネスカンパニー”を設置し、EXの未来を見据えた強固な布陣を整えました。

創業以来培ってきた素材技術、プロセス技術、評価・シミュレーション技術、製品設計技術、そして生産技術という5つのコアテクノロジーを活かして、「エネルギーを効率良く創る・送る・蓄える・変換する」といったEXのあらゆるシーンでソリューションを提供することでEXに貢献していきます。

EXに貢献するTDKの主な電子部品・デバイス

送る



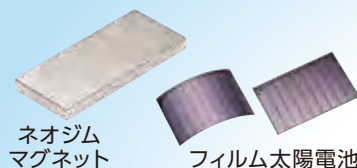
洋上風力発電の送電電圧の調整・安定化に貢献するフィルムコンデンサや、送電網の開閉器、変電所の遮断器などに使用される各種コンデンサを提供しています。

蓄える



小型機器用から蓄電用大容量電池まで様々なリチウムポリマー電池をラインアップ。また、世界に先駆けて、表面実装タイプの全固体電池を製品化しています。

創る



風力発電機用の高性能大型ネオジムマグネットは、再生可能エネルギーの活用にも貢献しています。また、屋内照明の光でも発電できるフィルム太陽電池も提供しています。

変換する



AC-DCスイッチング電源といった産業機器用電源や、xEV(ハイブリッドカー、電気自動車など)用のDC-DCコンバータなどの電源製品を幅広くラインアップしています。

EX Solutions



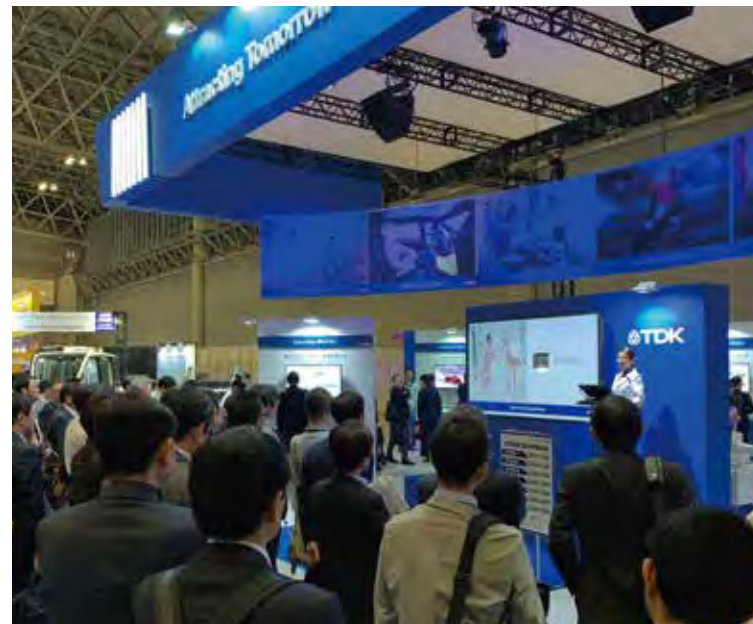
「つながる社会、共創する未来」をテーマとした 展示会『CEATEC 2019』に出展

TDKは、2019年10月15日(火)から18日(金)まで、千葉県の幕張メッセで開催されたアジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス展示会『CEATEC 2019』に出展しました。期間中のCEATEC全体の総来場者数は約14万5,000人に上り、会場は幅広い業種・業界の来場者で賑わいました。

今回のTDKブースでは「Make It Attractive」をテーマに掲げ、TDKが得意とする7つのマーケット(IoT, Mobility, Wellness, Connections, Energy, Robotics, Experience)において、幸せな未来を引き寄せるための製品を、デモ機や映像により紹介しました。

出展製品は、各種センサ、エナジーソリューション関連製品、受動部品など多岐にわたりましたが、数ある製品展示とデモンストレーションの中でも、ひときわ注目を集めたのは、 Piezoスピーカの“PiezoListen™”で、体験デモ機で実際の音響を体感できるデモコーナーは行列が途切れることがないほどの人気でした。 →TOPICS 2(次ページ)をご覧ください。

また、6軸センサが搭載されたスマートフォンがバランスボードの動きを検知する体感ゲーム型のデモコーナーも多くの来場者の興味を引くなど、様々な体験型デモを通して、TDKの技術力を大きくアピールすることができました。



ブース全体



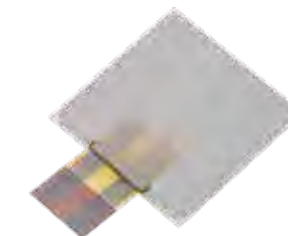
“PiezoListen™”の体験デモ
プラスチック板に“PiezoListen™”を
貼り付けたデモセット。
臨場感あふれるクリアなサウンドが
人気でした。

6軸センサ搭載の
バランスボードゲーム
TDKの高精度なモーションセンサを
搭載したスマートフォンを、
円盤型のボードに入れた、体感ゲームです。

圧電技術であらゆるものを スピーカに変える“PiezoListen™”

TDKがCEATEC2019に出展した新製品・ Piezosピーカ“PiezoListen™”は、世界最薄クラスの薄さ(約0.49mm)で、設置場所を選ばずに高音圧・広音域な音を生み出すことができるスピーカです。

“PiezoListen™”は Piezoアクチュエータと呼ばれる薄板状の圧電素子(※)を使って音を出す仕組みになっており、TDK独自の素材技術と積層技術により開発、製品化することができました。従来の圧電素子では難しいと言われてきた低周波領域に強く、400Hz～20,000Hzの幅広い音域を再生することが可能です。



Piezosピーカ“PiezoListen™”

その応用範囲は広く、例えば車載用途では、ダッシュボードやディスプレイの裏に貼り付けるだけでよく、スピーカの“穴”をつくる必要がなくなるため、車内デザインの自由度は大幅に高まります。また、自動車以外にも、テレビやノートパソコン、スマートフォン、ウェアラブル機器のスピーカとして、多種多様な用途で活用が期待されます。圧電技術であらゆるものをスピーカに変え、これまでにない新たなソリューションを幅広い分野で展開していきます。



※ 水晶や特定の種類のセラミックなどに圧力を加えることで生じるひずみに応じて、電圧が発生する現象を圧電効果といいます。
圧電素子(Piezo素子)とは、その圧電効果を利用して電気を取り出ししたり、逆に電圧をかけることで振動を取り出す電子部品のことを指します。



フェライトを原点とする素材技術、素材の持ち味を引き出すプロセス技術など、長年にわたって培われた総合技術力がTDKの強みです。絶えず時代の変化や最先端のニーズに対応することで、世界有数の電子部品メーカーへと発展を遂げてきたTDKの歴史をシリーズでご紹介します。

第6回(最終回)「将来を見据えた自己変革」 1990年代～2010年代

第1回
1930年代

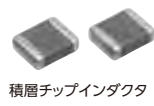


積層セラミックチップコンデンサ

携帯電話、パソコン、インターネットの普及に対応

1990年代は携帯電話、パソコン、インターネットの普及など、情報通信分野で大きな技術革新がもたらされた時代です。2000年代に入るとスマートフォンが登場して、ウェブサイトの閲覧や動画のスムーズな再生が可能になるなど、モバイルコンピューティング市場が急成長を遂げました。その一方で、スマートフォンの高機能・多機能化とともに、回路基板は超過密状態になり、搭載される電子部品には、一段と小型・軽量・薄型化が要求されるようになりました。TDKは蓄積したファイン積層テクノロジーを駆使して開発した各種積層チップ部品を提供し、これらのニーズに応えました。

第2回
1930～1950年代

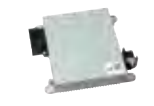


積層チップインダクタ

自動車の電装化の進展に貢献

1997年に世界初の量産ハイブリッドカー(HV)が発売されました。TDKは1999年にHV用DC-DCコンバータを開発し、メインバッテリーの高電圧を車載電子機器用の低電圧に高効率で変換することで、HVの燃費向上に貢献。21世紀の幕開けとともに自動車の電装化が一段と進むと予測したTDKは、自動車を重点市場の一つと位置付け、コンデンサやインダクタ、ノイズ対策部品である共通モードフィルタなど、多種多様で高品質な電子部品の提供により、自動車の電装化の進展に貢献してきました。

第3回
1950～1970年代



xEV用DC-DCコンバータ

積極的なM&Aを展開して自己変革

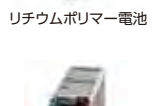
蓄積したコア技術を基盤としつつ、社会の要請を先取りして主力事業を大胆に入れ替える“非連続な進化”は、TDKの持続的な成長の源泉です。2005年にリチウムポリマー電池の製造・販売会社であるATL (Amperex Technology Ltd.) や、電源専門メーカーであるラムダパワーグループを買収、また2008年には電子デバイスメーカーEPCOS AG (現TDK Electronics AG) を買収するなど、積極的なM&Aを展開。IoT、5G通信、ウェアラブル機器、自動運転など、これから大きく発展することが見込まれる新市場に向けて、万全の体制を整えてきました。「創造によって文化、産業に貢献する」という社示に示された創業の精神を道しるべとして、将来を見据えた自己変革を続けてまいります。

第4回
1970～1980年代



車載用共通モードフィルタ

第5回
1980～1990年代



リチウムポリマー電池

AC-DCスイッチング電源 (AC-DC switching power supply)

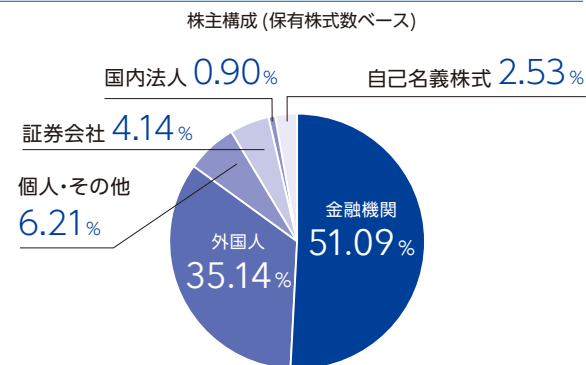
全6回にわたる「TDK History」をご愛読いただきありがとうございました。
TDKの製品・技術の歴史については、テーマや視点を変えて、今後もご紹介していく予定です。

会社概要・株主の状況

■ 会社概要 (2019年9月30日現在)

商号	TDK 株式会社 (TDK Corporation)
本社所在地	東京都中央区日本橋二丁目5番1号 日本橋高島屋三井ビルディング
設立年月日	1935年12月7日
資本金	32,641,976,312円
従業員数	106,255名
HPアドレス	https://www.jp.tdk.com/

■ 株主の状況 (2019年9月30日現在) 株主数 20,752名



■ IR年間スケジュール

第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通期決算発表			第1四半期決算発表			第2四半期決算発表			第3四半期決算発表		
招集通知送付			株主総会開催 期末配当金支払い開始			中間配当株主確定			中間配当金支払い開始		
									期末配当株主確定		

■ 役員状況 (2019年9月30日現在)

取締役 (*印は社外取締役)	執行役員
代表取締役 石黒 成直	社長 石黒 成直
代表取締役 山西 哲司	専務執行役員 逢坂 清治
取締役 澄田 誠	専務執行役員 Joachim Zichlarz (ヨアヒム・ツイヒラルツ)
取締役 逢坂 清治	常務執行役員 小林 敦夫
取締役 吉田 和正*	常務執行役員 齋藤 昇
取締役 石村 和彦*	常務執行役員 山西 哲司
取締役 八木 和則*	常務執行役員 永田 充
	執行役員 Joachim Thiele (ヨアヒム・ティール)
監査役 (**印は社外監査役)	執行役員 Michael Pocsatko (マイケル・ポチャッコ)
常勤監査役 桃塚 高和	執行役員 Hong Tian (ホン・ティエン)
常勤監査役 末木 悟	執行役員 Albert Ong (アルバート・オン)
監査役 石井 純**	執行役員 松岡 大
監査役 Douglas K. Freeman** (ダグラス・K・フリーマン)	執行役員 疋田 理
監査役 千葉 通子**	執行役員 Andreas Keller (アンドレアス・ケラー)
	執行役員 佐藤 茂樹
	執行役員 指田 史雄
	執行役員 矢代 博行
	執行役員 Ji Bin Geng (ジービン・ガン)